

TSUDA TODAY

No. 125

津田塾大学

November 2022



2022年度 津田梅子記念会 & ホームカミングデー報告

10月9日(日)、4年ぶりにキャンパスでの津田梅子記念会 & ホームカミングデーが開催されました。対面での開催と同時に、津田塾大学公式YouTubeチャンネルでもライブ配信を行いました。

午前の部の津田梅子記念礼拝は、スティーブン・リーパー氏(広島平和文化村代表、広島女学院大学・長崎大学客員教授)を奨励者としてお招きしました。「核兵器、戦争とイエス様の教え」というテーマで話をされ事前収録したものが上映されました。続いて、「津田梅子賞」の贈賞式と「高校生エッセー・コンテスト」の表彰式が行われました。前者の受賞者は、女性初の労働事務次官に就任した松原亘子氏です。後者は、死の間際にある患者たちのセラピーに関わったキューブラー・ロスの言葉を手がかりにエッセーを書くというテーマに対し、英語作品84編、日本語作品49編という多数の応募がありました。その中

▶津田塾大学同窓会副会長 多文化・国際協力学科教授 松山 章子

から3名の優秀賞と1名の最優秀賞が選出されました。

午後には、津田塾大学創立120周年記念、特別対談「田嶋陽子が語る『変革を担う、女性であること』」が行われました。田嶋陽子氏(英大29、院1969)は、高橋学長を聞き手にユーモアを交えそのパワフルな生きざまを語られ、同窓生も大きな刺激を受けたと思います。また、同時開催イベントして、「津田梅子の小袖修復プロジェクト」、「石内都 in Tsudajuku 女たちのポリフォニー」展、「Let's 国際交流」、「多文化・国際協力学科ラウンドテーブル『卒業生とのシンポジウム』」も実施されました。新型コロナウイルス感染症対策を取りながらも久しぶりの対面開催となり、先行きへの明るい希望を感じさせてくれた今年度津田梅子記念会でした。



津田梅子記念礼拝 要約「核兵器、戦争とイエス様の教え」

ルカによる福音書 第6章27節～36節(新共同訳聖書)

▶広島平和文化村代表、広島女学院大学・長崎大学客員教授 スティーブン・リーパー氏

よく「平和とは何ですか」と聞かれます。私は、平和とは「社会的健康」だと思います。今、地球は病気です。人間は癌のような存在です。世界の30%の人にはきれいな水がなく、5割の人は1日数百円以下で暮らし、10億の人が飢え死にしようとしています。人類がなぜこのような状態になったのか？ 地球には、人々を養うだけの能力があるのに、なぜでしょう？ それは、「愛」がないからです。

イエス様は、「競争しなくていい」と教えられました。最初の300年間は、すべてのキリスト者は平和主義者でしたが、私たちは今、核兵器を持つ、力の文明に住んでいます。その文明を卒業し、愛の文明へ移らなければ、人間は自滅するでしょう。競争に勝つことだけを考える「戦争文化」で、全世界のことを考えるのは不可能です。「平和文化」は、みんなが幸せになるためにどうすればいいかを考えます。競争ではなく協力して、この地球を守りましょう。日本は大切な立場に立っています。



2022年度 津田梅子賞 選考結果報告

2010年、津田塾大学創立110周年を記念して創設した「津田梅子賞」も、今年で12回目を迎えました。本賞は、津田梅子のパイオニア精神にちなみ、女性の未来をひらく可能性への挑戦を顕彰することを目的とします。

選考対象

以下の1.または2.に該当する個人/団体で、現代社会に顕著な影響を与えた方

1. 女性の可能性を広げる取り組みを行う個人または団体・組織(性別を問いません)
2. さまざまな分野で先駆的な活動を展開した女性

2022年度は選考の結果、次の方に決定し、10月9日(日)津田塾大学において贈賞式が執り行われました。

受賞者 ^{のぶこ}松原 亘子 氏 (1997年に女性初の労働事務次官に就任)

東京都出身。1964年、東京大学教養学部卒業後、労働省入省。1978年に婦人少年局(当時の呼称)に配属になって以降、働く女性に関わる多くの法律に関わり、課長補佐、企画官、課長では男女雇用機会均等法(以下、均等法と表記)の制定、施行(1986年)に取り組んだ。均等法は激しい労使の対立があり、準備から施行までに8年8か月年月を費やした。婦人局長時代には、育児休業法、パートタイム労働法、介護休業法の制定、施行を担当した(1995年から育児・介護休業法)。介護休業法の制定にあたっては、均等法の制定時ほどではなかったにせよ「財界の非常に厳しい対応があった」と、後に述懐している。ILO156号条約(家族的責任を有する男女労働者の機会及び待遇の均等に関する条約)の批准も、局長時代に行なわれた。

松原氏の後、女性労働事務次官は1人務めたが、女性事務次官は他省庁では誕生していない。省庁は依然、男性社会であるなか、松原氏の業績は津田梅子賞に相応しいと言える。



贈賞式でのスピーチ

この度は津田梅子賞という輝かしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。心より御礼申し上げます。

ただ正直に申し上げますと、電話で内定のお知らせをいただいた時にはまず「エツ!なんで私に?」と思いました。

それはこの歳になって「何故?」という単純な驚きでしたが、加えて、私のこれまでの人生のほとんどは公務員としての職業生活であったことからこの賞の趣旨に照らして本当に私に受賞者の資格があるのだろうかと思ったからです。過去の実績の方々はいずれも女性の地位向上や活躍推進に貢献された方が、ご自身が女性として自ら新しい道を拓かれた方ばかりです。

私自身も「女性初」として紹介されることはありましたが、それは公務員としてアサインされた任務をひたすら実行した結果に伴うものにすぎません。それが評価されたとしたらそれは任務を共に遂行した先輩、同僚など多くの仕事仲間との共同作業の成果の賜物です。

雇用機会均等法など法律制定に係る仕事が成果を生むまでには長い年月が必要であり、その間には法制定の功労者として表舞台に出た人以外にその舞台を準備した人、裏方で人知れず努力した人、厳しい批判を受け止めてくれた人などが大勢いたことを忘れることはできません。

また、当初の均等法は多くの女性達や労働組合関係者からは「実効性がない」「ザル法だ」という批判がありましたが、私は、「今はみにくいアヒルの子と後ろ指を指されているけれど、いずれ白鳥になる」と信じ、周囲にもそう話していました。そしてこの法律はその後の改正により今の姿になりました。これは法に後押しさ

れた多くの働く女性達がそれを活かすべく意欲能力を発揮したことにより世の中が女性の力を経験知として認識した結果、法自体がさらに実効性のあるものへと高められたものであると思います。

我が国の女性の地位は国際的には見劣りがすると言われていますが、均等法以後の女性の活躍ぶりには目を見張るものがあり、民間企業における役員も着実に増えています。若い方々には女性だからできないということはないという認識をもって自らの人生の道筋を描き、進んでいっていただきたいと心から祈念しています。

本日はどうもありがとうございました。



津田梅子賞受賞者松原亘子氏(左から3番目)と選考委員

第22回 高校生エッセー・コンテスト 結果発表

10月9日(日) 津田梅子記念会&ホームカミングデーにおいて第22回高校生エッセー・コンテストの選考結果発表と最優秀賞受賞者の表彰式が執り行われました。

当日は最優秀賞の北村季亜奈ケルトナーさんが受賞作品を朗読しました。

応募作品 133編(英語作品84編、日本語作品49編)

選考の結果、次の方々が優秀賞に選ばれました。(アルファベット順、敬称略)

最優秀賞(1名)	北村 季亜奈 ケルトナー	同志社国際高等学校	2年(京都府)(英語)
優秀賞(3名)	市村 有多	遺愛女子高等学校	1年(北海道)(日本語)
	岩田 真奈	頌栄女子学院高等学校	1年(東京都)(英語)
	小瀧 日南子	京都女子高等学校	3年(京都府)(日本語)



最優秀賞受賞者の北村さんと高橋学長

最優秀作品

For as long as I can recall, my grandmother has suffered from dementia. I've heard stories about how energetic she was and how she would take me out to play. However, I can only relive these bonding experiences through photos, as I remember her to be forgetful and needing assistance. As I grew older, her mind continued to deteriorate, leading to my connection with her becoming distant.

Last spring my grandmother broke her shoulder from falling down the stairs. Covid-19 restrictions resulted in a two-month isolated hospitalization, with only hospital staff by her side. When she was released, her dementia had worsened, her right arm was frozen, and she was in a wheelchair, unable to do anything alone. There were temper tantrums, fights, and refusals to eat or drink, as she was in a constant state of confusion. The doctor informed us there was little hope of recovery and recommended placing her in a senior home, which my family did not accept. As my mother and I were the few she recognized, my responsibility to take care of her grew. I took initiative, often feeding her, changing her, and entertaining her. Trying to convince her to come out of her shell with toys, stuffed animals, and coloring books became a daily routine. As I watched my grandmother regress physically and mentally, I felt at a loss.

同志社国際高等学校 2年 北村 季亜奈 ケルトナー

Fortunately, over the next few months, the tide began to turn. Day by day, there were small improvements that gave me hope. Little successes, such as convincing her to eat a small portion of food, were victories. Major setbacks, such as my grandmother returning to a mute, unmoving state, were discouraging. Nevertheless, as she slowly progressed, she found the vigor to live. She was slowly returning to her old self.

This was not a journey my grandmother faced alone. Had my family given up on her, she likely would not be alive today. Despite our stress-filled sleepless nights, in the face of adversity, my mother and I pushed through. Giving up was never an option. Giving up meant death. All of our combined efforts enabled us to overcome these hardships.

This experience as a vital caretaker resulted in a deeper emotional connection with my grandmother, bringing me tremendous happiness. Had I given up throughout this journey, I would have regretted not reaching out and missing the opportunity to bond with her. In the words of Elisabeth Kübler-Ross, "There are no mistakes, no coincidences. All events are blessings given to us to learn from." Deep within this unfortunate accident, there was a lesson about love and perseverance, one which I will never forget.

講評

2022年度高校生エッセー・コンテスト審査委員長・ライティングセンター長 総合政策学部教授 大島 美穂

高校生エッセー・コンテストは、津田塾大学創立100周年を記念して2000年に始まり、今年で22回目となりました。

今回は創立120周年記念事業の一環として、津田塾大学「Tsuda Vision 2030」のミッションステートメントのひとつ、「逆境を、創造を灯す光に」をテーマとし、精神医学者エリザベス・キューブラー・ロス(Elisabeth Kübler-Ross, 1926-2004)の言葉を手がかりにエッセーを書くという課題でした。

死の間際にある患者たちのセラピーに関わったロスは、言葉にするのを避けがちな「死」に光を当て、従来の医療のあり方に一石を投じた人です。1969年に出版した『On Death and Dying(邦題「死ぬ瞬間」)』は、「死」に至る患者の心のプロセスを解き明かそうとしたもので、世界各国で翻訳されました。患者一人ひとりの尊厳とは何かという問いに向き合い、あえて死を語るコミュニケーションを重視するターミナルケア(終末期医療)を推進するなど、ロスは、まさに本学の創立者・

津田梅子に連なる「変革を担う」女性でした。一方、彼女の人生は「逆境を、創造を灯す光に」変える連続でもありました。

難しいテーマにもかかわらず、国内外から133編の応募がありました。また、英語作品が日本語作品を上回る結果となり、審査委員一同、その果敢なチャレンジを嬉しく思いました。コロナ禍や戦争が社会に影を落とす中、ロスの言葉と誠実に向き合い、それぞれの逆境から「光」を見いだそうとする作品が数多くあり、検討の結果、最優秀賞1名と優秀賞3名を選びました。

最優秀賞の北村さんの作品は、一進一退を続ける祖母の介護を母と共に過ごす中で日々の心の機敏を前向きに綴っていました。優秀賞の岩田さんは父の急死について、市村さんは祖父の死に、小瀧さんはコロナ禍での逆境に、それぞれ真摯に向き合い「光」を見つけた経験を記しています。

英語英文学科主催 第5回エッセーコンテスト Jr. 受賞者発表

英語英文学科にて小・中学生を対象とした「第5回エッセーコンテスト Jr.」を開催しました。テーマは、『「まなぶ」ってなんだろう。』どんな学びがあれば、世界は平和になるのか、自分にとっての学びの意味はどこにあるのか、自由に書いてもらいました。全国から、またイギリスからも応募があり、Jr. 大賞1名、Jr. 奨励賞7名が選ばれました。

受賞者に賞状・副賞と記念品、そして参加者全員に記念品を贈呈しました。

受賞者は、以下の方々です。おめでとうございます。

Jr.大賞	安田 莉菜	さいたま市立与野東中学校	2年	
Jr.奨励賞	三浦 藍	長岡市立表町小学校	1年	
	中木 夏美	浜松学芸中学校	2年	
	佐野 杏花	常葉大学附属橘中学校・高等学校	2年	
	杉山 碧泉	ACS International School Hillingdon	6th Grade	
	高杉 彩永リン	浦和実業学園中学校	3年	
	山本 留璃	山脇学園中学校・高等学校	1年	
	吉川 隆士	千代田区立麹町中学校	3年	(アルファベット順、敬称略)

津田梅子記念交流館改修 「山根記念ギャラリー」を開設しました

この度、本学の卒業生で女性初の外交官として将来を嘱望されながら、1956年に航空機事故により34歳という若さで急逝した山根敏子氏の名を冠したギャラリー「山根記念ギャラリー」が小平キャンパスの津田梅子記念交流館内に開設されることになりました。改装工事は、山根氏の意思が将来国際的な活躍を希望する女子学生に引き継がれることを願い設立された山根奨学基金(2022年3月解散)の寄付により行われました。

改装されたギャラリーでは、本学の創立120周年記念及び「山根記念ギャラリー」開設の記念として、世界的に有名な写真家石内都氏の写真展「石内都 in Tsudajuku 女たちのポリフォニー」展を開催しました(10月6日~11月11日)。石内氏の固定観念にとらわれないしなやかな発想と生き方が、被写体を自由に大きく飛翔させ写真という芸術になるのだと感じました。力強く、美しい石内さんの写真の世界を楽しめるまたとない機会となりました。

人間国宝である染織家 志村ふくみさんの「藍色」にインスピレーションを得て生まれた、宇宙の光に照らされた地球と私たちの色の命の物語である『インディゴをさがして』原画展~横須賀香と色の旅~(クララ・クマガイ氏作)が11月28日(月)~12月22日(木)で開催されます。本作は、横須賀香氏の挿絵と本学 早川敦子教授による翻訳

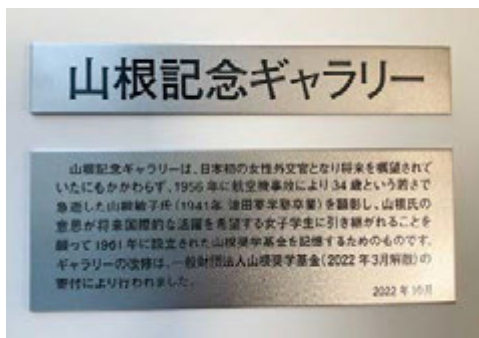
▶津田梅子記念交流館館長 多文化・国際協力学科教授 松山 章子

で、小学館より2020年の冬に出版されました。この絵本出版を記念して、学芸学部英語英文学科主催「第4回エッセー・コンテスト Jr.」の課題図書にもなりました。

今冬、コロナ禍のために延期となっていたこの原画展を開催するはこびとなりましたので、改修した交流館に鑑賞しにお越しいただきたい。



中庭ウッドデッキ



「石内都 in Tsudajuku 女たちのポリフォニー」展

© 石内都

津田塾大学創立120周年記念事業を実施しています

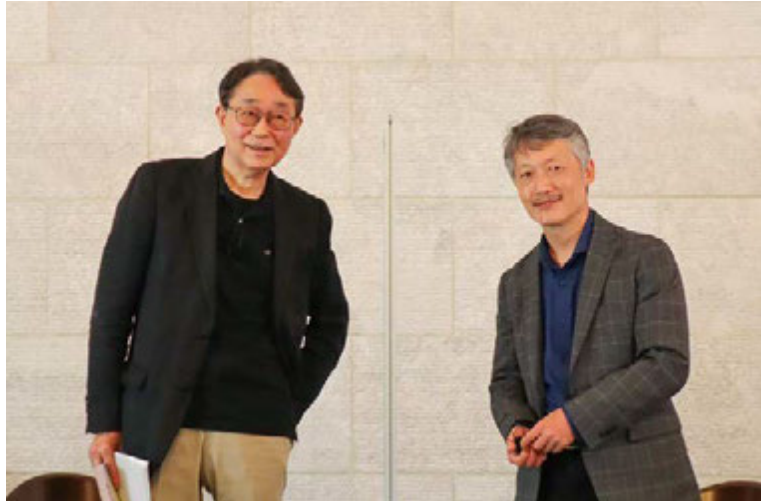
津田塾大学は1900年、女子英学塾として津田梅子により創立され、2020年に120周年を迎えました。本年も引き続き120周年記念を冠したイベントとして講演会や展示等を展開しています。対談は津田塾大学公式YouTubeチャンネル(<https://www.youtube.com/tsudajyuku>)にて公開しています。

「エリザベス・キューブラー・ロス、そして命を語る」

対談：山崎 章郎(医師・ケアタウン小平クリニック名誉院長)・上野 創(朝日新聞記者)

2022年度高校生エッセー・コンテスト「逆境を、創造を灯す光に—エリザベス・キューブラー・ロスの言葉を手がかりに」に関連して、6月7日(火)に行われた創立120周年記念特別対談企画「エリザベス・キューブラー・ロス、そして命を語る」を6月21日よりオンラインで配信しています。ゲストは、ロスの新たな死生観をめぐる思想に深く影響を受け、日本における終末医療のあり方をホスピスケアから模索して来られた山崎章郎医師。ロスの著作『死ぬ瞬間』と出会った若き日の衝撃から、これまで関わって来られた多くの患者さんたちの生と死、そして現在ご自身がステージ4のがんと向き合う現実に基づくがん医療への提言まで、深い思索を通して「命」をめぐるメッセージを伝えて下さいました。聞き手に、がんの闘病を経験された新聞記者の上野創氏をお迎えできたことは、学生など若い視聴者にとっても意義深いことでした。

まさに人生の逆境を乗り越えて変革を担ったロスの女性としての姿とともに、希望への転換を導く創造のあり方は、本学のスピリットへのエールです。



左から山崎氏、上野氏

特別対談：田嶋陽子が語る『変革を担う、女性であること』

2022年度津田梅子記念会&ホームカミングデーの午後のプログラムとして、本学の卒業生であり、元法政大学教授、多くの著作やマスコミでも活躍を続けて来られた田嶋陽子氏をお迎えし、高橋裕子学長を聞き手に特別対談「田嶋陽子が語る『変革を担う、女性であること』」が行われました。

「女性であること」の経験をどう受け止めて来られたのか、少女時代のお話には、田嶋氏が長じて「女性学」のパイオニアとして切り拓かれた視点の原点が示唆され、まさに「変革を担う、女性」としての

歩みが伝わってきました。日本社会の変化を敏感に捉えながら一貫してパワフルに発信を続ける氏のユーモアとエネルギー溢れる「田嶋節」の語りには、会場が沸きました。氏のこれまでの軌跡や著作を読み込んだ高橋学長の周到な「事前の予習」には田嶋氏も感心することしきりの様子で、学長の質問に促されて、津田塾での学生生活のエピソードから、60歳過ぎて始められたという、趣味の域を超えるシャンソンや書アートをめぐるスライドの紹介まで、話題満載の90分でした。



著者と語る：『らんたん』柚木麻子 & 『津田梅子』高橋裕子対談

2022年10月3日(月)に、恵泉女学園の創設者、河井道の姿と当時の女子教育のパイオニアたちの群像を描く『らんたん』の著者である作家・柚木麻子氏を迎え、『津田梅子 女子教育を拓く』(岩波ジュニア新書)を上梓した本学学長・高橋裕子との対談を開催しました。



「石内都 in Tsudajuku 女たちのポリフォニー」展 オープニング記念特別対談

津田塾大学創立120周年企画として、また津田梅子記念交流館・山根記念ギャラリーのリニューアル・オープンを記念して、「石内都 in Tsudajuku 女たちのポリフォニー」展を開催しました。これを記念して10月5日(水)には石内氏と高橋学長の対談が行われました。



創立120周年記念事業：国際化推進事業による講演会

本学卒業生 千田悦子氏講演会

「今、世界に必要な言葉とは コロナ禍の世界をどう読むか」

2022年10月20日(木)に、本学卒業生の千田悦子氏(元国連難民高等弁務官事務所恒久的問題解決担当)の講演会を開催しました。この講演会は、本学の国際化推進事業、英語英文学科主催の翻訳通訳プログラム講演会として、「コロナ禍に立ち向かう世界b」の授業内にオンラインで開催しました。激動する世界と向き合うために何が必要かについて、熱く語りいただきました。



ロジャー・パルバース氏講演会

“Surviving the Future Being a Japanese in the 21st Century”

2022年10月27日(木) アメリカ合衆国出身でオーストラリアの作家、翻訳家、劇作家、演出家、映画監督であるロジャー・パルバース氏をお招きし、“Surviving the Future Being a Japanese in the 21st Century”と題した講演会が行われました。本講演会は、本学国際センター主催、経営企画課の協力を得て、創立120周年記念事業：国際化推進事業として行われました。コロナ禍で定員を絞り対面で開催しましたが、50名以上の学生が集い、会場は満員となりました。

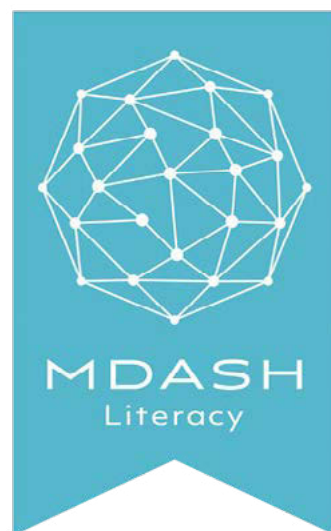
導入部分では歴史的に日本人が何を目指してきたかについて語られ、あらゆる面で再定義が行われる21世紀に、自身のMoral Compass(道徳的羅針盤)をどう働かせるかについて、宮沢賢治の作品や世界の歴史を参照しながらお話いただきました。

質疑応答の時間には、留学生、在学生両方から質問があり、本学の国際化推進に資する、気づきの多い講演会となりました。



文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定について

本学のデータサイエンス・リテラシープログラムが、2022年度の文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)は、数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するため、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程(教育プログラム)を文部科学大臣が認定及び選定して奨励するものです。認定の有効期限は2027(令和9)年3月31日までです。



MDASH
Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education

データサイエンス・リテラシープログラムとは

日本の目指す未来社会の姿として「Society 5.0」が提唱されています。これは、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、仮想空間と現実の空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)を示していると言われます。そのような変化の中において、数理・データサイエンス・AIは、社会のさまざまな分野で活用されています。本学では、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心の高まりに対応し、適切に理解し活用する基礎的な能力を修得することを目的として「データサイエンス・リテラシープログラム」を提供しています。

このプログラムで身につけることのできる知識、能力

学芸学部

データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的な知識を修得することで、文系・理系問わず幅広い専門領域において、データを用いた客観的な知見を抽出する力を身につけます。さらに、Society 5.0などの動向やデータ活用事例および、活用にあたる様々な留意事項等を学修することにより、卒業後、身につけた力を社会の中でどう活用していくのかについての方法論も修得します。

総合政策学部

AI、データサイエンスに関する情報科学、社会科学に関する基礎知識や、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会に至る情報処理、情報通信技術と関係する社会制度についての基礎知識を習得し、社会的な課題に関するデータの収集および分析方法とその結果をわかりやすく表現する能力を身につけます。

詳細は、本学公式 web サイト(URL:<https://www.tsuda.ac.jp/learning/data-science-literacy.html>)をご覧ください。

データサイエンス・リテラシープログラムの内容

学部	学科	科目名	単位数	合計単位数	
学芸学部	英語英文学科 国際関係学科 多文化・国際協力学科	情報処理 Ia	1	3	
		データリテラシー b	1		
		情報と社会(4)	1		
	数学科	情報処理	2	4	
		データリテラシー b	1		
		情報と社会(4)	1		
	情報科学科	情報科学科	コンピュータリテラシー a	1	3
			データリテラシー b	1	
			情報と社会(4)	1	
総合政策学部	総合政策学科	データ・サイエンス入門	2	4	
		情報通信技術と社会	2		

2022年度 梅子スカラシップ(学業)受給者発表

梅子スカラシップ(学業)は2年生以上を対象とした給付奨学金です。各学科から推薦された学業・人物優秀者を対象に全学学生委員会で選考されます。2022年度は30名となりました。授与式は、7月27日(水)に小平キャンパスにて対面で行われ、会場では高橋学長より受給者へ証書が授与されました。

受給者は次のとおりです(敬称略、順不同)

学芸学部		国際関係学科		多文化・国際協力学科		数学科		情報科学科		総合政策学部	
英語英文学科		国際関係学科		多文化・国際協力学科		数学科		情報科学科		総合政策学科	
学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
2	清水 真凜	2	吉田 明華	2	野口 天暖	2	川野 真佑	2	原田 理花	2	川鍋 萌音
2	小川 桃子	2	本田 もも香	3	筏井 千恵	3	近成 秋穂	2	吉岡 利恵	3	原口 なつみ
2	小柳 日佳莉	2	渡辺 三優	4	伊丹 優美			3	小林 かさね	3	西野 麗華
3	森田 能乃子	3	鎌田 真由					3	小島 美緒	4	益田 真歩
3	稲葉 沙也香	3	田子根 成奈								
3	岡本 愛理	3	塚本 莉奈								
4	荒木 真輝	4	原 千裕								
4	土方 雅子	4	東 紗椰								
		4	廣川 桜								



2022年度梅子スカラシップ(学業)授与式

ようこそ津田塾大学へ(留学生紹介)

2022年9月に18名の交換留学生在津田塾大学に入学しました。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

CY セルジー・パリ大学(フランス)

Betoubam, Djelia(バトゥバム ジェリア)

Lassauniere, Agathe(ラソニエル アガート)

インディアナ大学パデュー大学インディアナポリス(アメリカ)

Ward, Ava(ウォード エイバ)

ウエスタン・ワシントン大学(アメリカ)

Carlson, Natalie(カールソン ナタリー)

Holland, Aleah(ホランド アリヤー)

国民大学(韓国)

Gwak, Eunhye(クァク ウネ)

Jung, Jaebeen(ジョン ジェビン)

サラ・ローレンス大学(アメリカ)

Nelson, Laurel(ネルソン ローレル)

ハインリッヒ・ハイン大学デュッセルドルフ(ドイツ)

Hofmann, Tabea(ホフマン タベア)

Taghizadeh, Darya(タギザーデダリヤ)

ハノイ国家大学外国語大学(ベトナム)

Cao, Ngoc Linh(カオ ゴック リン)

Hoang, Kim Ngan(ホアン キム ガン)

ブレーメン応用科学大学(ドイツ)

Akgun, Dilay(アキュン ディライ)

Flegel, Vanessa(フレゲル ヴァネッサ)

香港樹仁大学(中国・香港)

Fung, Hedia(フング ヘディア)

梨花女子大学(韓国)

Lee, Chaeyeon(イ チェヨン)

Song, Jaeweon(ソン ジェウオン)

Jeong, Yoobin(チョン ユビン)

(大学順)



18名の交換留学生

最終講義のご案内

今年度定年を迎えられる教員の最終講義を、以下のとおり予定しています。在学生、卒業生問わず、ぜひご出席ください。

文学研究科 教授 野田 小枝子

テーマ:「発見する先生」を目指して

日時: 2023年3月20日(月)3限 13:00~14:30

場所: 千駄ヶ谷キャンパス 広瀬記念ホール SA305 教室

実施方法: ハイブリッド形式

お申込み: お申し込み方法は大学公式webサイトに掲載します。

お問合せ: 学芸学部事務室(英語英文学科) eiji@tsuda.ac.jp

第63回津田塾祭を開催しました

第63回津田塾祭は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員制、事前予約制で対面開催しました。開催前に両日共に定員が埋まる盛況ぶりでした。

高校生が受験相談できる受験生カフェ、教員による講義や雑談を聞ける「ゆるトーク」をはじめ、メインゲストのトークショー、メイク講座、外部アーティストによる中庭ステージなど様々な企画を実施し、どれも盛り上がりを見せました。



第63回津田塾祭によせて

第63回津田塾祭実行委員会委員長 国際関係学科2年
玉川 音葉

第63回津田塾祭が無事に終了いたしました。

コロナ禍でありながらも感染対策を徹底しながら新しい企画にも挑戦していくことは前例が無く、とても大変なことではありましたが、共に協力しながら津田塾祭を創り上げてくれた実行委員には感謝しかありません。また、当日だけでなく、準備、後片付けの段階でも支えてくださった企業様、教職員、地域の方々、参加団体の皆様に、御礼申し上げます。

今回の津田塾祭はコロナ禍で忘れがちになっていた「人との繋がり」を再確認できた素晴らしい学園祭だったと感じております。

ご来場いただいた方々に最高の津田塾祭をお届けできたと思っております。

最後になりますが、来年度以降の津田塾祭も応援していただけると幸いです。



新任職員紹介

新任職員(10/1付)

事務局付(管理課業務担当)
江部 友大

はじめまして、10月より管理課に配属になりました江部友大と申します。前職では公務員として、防災やオリンピック・パラリンピックに関する業務等に従事しておりました。早く業務の全体像を把握し、戦力として大学のお役に立てよう努めます。至らぬ点も多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

新任職員(10/1付)

事務局付(経営企画課業務担当)
佐藤 史朗

これまでは保険や共済を扱う業務を行っており、全く別の業界からのキャリアチェンジとなりました。

津田塾大学の一員であるという自覚を胸に日々の業務に取り組みたいと思います。

一日でも早く本学に貢献できるよう励んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

新任職員(10/1付)

事務局付(教務課業務担当)
吉川 真珠

前職では、オフィス家具メーカーで営業をしており、内装工事を含めた働く場の提案をしてきました。歴史ある本学で働く機会を得られたこと、とても嬉しく思います。常に学び続ける姿勢を大切に、業務に取り組んでいきます。一日でも早く仕事を覚え、貢献できるよう精進していきますので、これからよろしくお願いいたします。

優良教育賞受賞者発表

本学では、より良い教育を実現するために全学SD・FD委員会を設置し、教員の教育力向上を目指したFD活動を行っています。その一環として、「授業評価に基づく教育業績の表彰に関する規程」にのっとり、「優良教育賞」を授与しています。「優良教育賞」は前年度の学生による授業評価アンケートにおいて、いくつかの質問事項に対する学生からの評価が高得点であった科目の担当教員を対象として、学長が表彰するものです。今年度は、下記5名に授与されました。



「アメリカ小説a」

第1ターム
相木 裕史先生



「多文化・国際協力の学び(1)」

第1ターム
木村 真希子先生



「福祉社会学」

第1ターム
門下 祐子先生



「線形代数学(演習付)」

第3・4ターム
原 隆先生



「社会実践の諸相」

第1ターム
村木 厚子先生

理事会・評議員会開催報告

第311回理事会 2022年6月24日

【審議事項】

- 2021(令和3)年度人事院勧告の対応に関する件
- 特任教員の2023年度定年延長に関する件

【報告事項】

- 2022年度監事監査計画について
- その他

第312回理事会 2022年9月30日

【審議事項】

- 2022年度補正予算(案)に関する件
- 学内規則の区分、制定の手続き等に関する規則の改正に関する件
- 役員・評議員報酬等規程の改正に関する件

【報告事項】

- 『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン』に示されている理事会の役割について
- 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)に基づく履行状況調査に係るフォロー・アップ・意見交換会の実施について

査のガイドライン(実施基準)に基づく履行状況調査に係るフォロー・アップ・意見交換会の実施について

- 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定について
- 大学設置基準の改正について
- 私立学校法の改正について
- 創立120周年記念事業について
- 梅林の土地活用について
- その他

寄付者ご芳名 (2022年9月30日現在 掲載希望者のみ)

サポート<津田スピリット>募金

【交流館改修(山根 敏子氏の名を冠したホールの設置)】
一般財団法人山根奨学基金 様

【教育振興資金】
秋谷 友紀 様
高木 博巳 様
他 2名様

【学修環境整備(小平キャンパス)】
青木 謙次郎 様
星 真維美 様
他 1名様

【学修環境整備(千駄ヶ谷キャンパス)】
十良澤 成美 様

【学生支援(留学生派遣)】
野口 真由美 様

サポート<津田スピリット>募金 創立120周年記念事業募金

築野 富美 様
築野 順子 様
神戸 英代 様

坂垣 絵里 様
橋本 いづみ 様
園部 かおる 様

鶴見 みどり 様
井上 博道 様
中野 育正 様

宮前 和代 様
増田 早紀 様
株式会社みずほ銀行 様

株式会社東洋ジービー 様
富士テレコム株式会社 様
他 17名様

サポート<津田スピリット>募金 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急募金

大西 梨恵 様 今村 彩織 様 橋本 いづみ 様 土屋 典子 様 他 5名様

【現物寄付】 株式会社ニイタカ 様(アルコール消毒剤 1L x 12本)

2023年度 一般選抜情報

入試制度	学科	募集人員	出願期間	入学試験	合格発表	入学手続締切	
A方式	(学)英語英文学科	85	2023年 1/4(水)~ 1/20(金)	2/5(日)	2/16(木)	2/22(水)	
	(学)多文化・国際協力学科	50		2/6(月)			
	(学)数学科	25					
	(学)情報科学科	25		2/7(火)			
	(学)国際関係学科	115					
B方式	(総)総合政策学科	40	2023年 1/4(水)~ 2/17(金)	2/28(火)	3/8(水)	3/15(水) 3/24(金)	
	(学)英語英文学科	25					
	(学)国際関係学科	20					
	(学)多文化・国際協力学科	10					
	(学)数学科	5					
C方式 (前期)	(学)情報科学科	5	2023年 1/4(水)~ 1/13(金)	大学入学 共通テスト 1/14(土) 1/15(日)	2/16(木)	2/22(水)	
	(学)英語英文学科	3教科型 4教科型					15 15
	(学)国際関係学科	3教科型 4教科型					15 15
	(学)多文化・国際協力学科	5					
	(学)数学科	5					
	(学)情報科学科	10					
	(総)総合政策学科	3教科型					10
C方式 (後期)	(学)英語英文学科	5科目型	2023年 1/16(月)~ 3/8(水)		3/18(土)	3/24(金)	
	(総)総合政策学科	4教科型 2教科型					10 10

(注) 出願期間及び入学手続締切日に(必着)の添書きがない場合は、締切日当日の(消印有効)です。

(注) 学芸学部は(学)、総合政策学部は(総)と表示しています。

< 津田梅子資料室よりお知らせ >

2022年度企画展では、2つの展示を同時開催します。

『創立120周年記念事業「津田梅子の小袖修復プロジェクト」～中間報告～』（協力：女子美術大学染織文化資源研究所）

1871(明治4)年12月、日本初の女子留学生の一人として、満6歳の津田梅子は岩倉使節団とともに、横浜からアメリカへ向けて旅立ちました。この時に着ていた朱色の小袖が、津田梅子資料室に保管されています。およそ200年前に作られた小袖は、朱色の地に鶴亀の縁起の良い柄と、色とりどりの花の刺繍が施されており、当時はさぞ華やかであったろうと想像できます。

この小袖は津田梅子関連資料の中でもとくに人気があり、何度も展示・取材で登場し、多くの人の目を楽しませていましたが、徐々に退色が進み、刺繍や縫い目のホツレも目立つようになってしまったため、創立120周

年を機に、本格的な修理をすることになりました。

現在、女子美術大学染織文化資源研究所の大崎綾子先生とスタッフの皆様の全面協力の下、保存処理・修復作業を実施しています。本学と同じ1900年創立の女子美術大学は日本刺繍の技術・研究において定評があり、染織文化資源研究所はその技術を活かして多くの染織文化財の修復を手掛けています。

本企画展では、修復プロジェクトの経緯、作業の状況や小袖に関する物語などを「中間報告」として展示いたします。

『津田梅子の生涯』(常設)

1864(元治元)年12月31日、津田梅子は江戸で生まれました。

満6歳の時に日本初の女子留学生の一人に選ばれてアメリカに渡った梅子は、様々な出会いと経験を経て“女性のための学校を作る”志をたて、やがて日本初の女子高等教育の学校『女子英学塾』を設立します。日本の

女性たちを勇気づけ、その地位向上のために人生を捧げた津田梅子のあゆみを、貴重な写真や史料を使って紹介します。

女性の成長と自立のために情熱をささげた津田梅子の物語を、ぜひご覧ください。

< 会期 > 2022年10月9日(日)～2023年9月29日(金) 日時予約制

冬期公開講座(文学研究科英語教育研究コース)

「これからの英語授業のために」

新学習指導要領、デジタルツール、コロナ禍への対応など、英語教育を取り巻くいろいろな環境の変化を経て、変わるべきもの、変わるべきでないものを、私たちは限られた条件の中で選択しながら授業を進めてきたかと思えます。本講座では4日間にわたり4人の先生方に、英語教育に関わる方々に向けて、ご自分の実践されてきたご指導、ご提案などについてお話しいただきます。是非ふるってご参加ください。

対象：現職の英語教員、英語教育について学ぶ学生・大学院生、英語教育に関心のある方

日程：2022年12月21日(水) 22日(木) 23日(金) 24日(土)

各日とも10:30～12:00(各日の担当者とトピックは、申込フォームをご確認ください。)

開催形式：Zoomによるオンラインセッション

定員：60名(先着順に申込受付、定員になり次第締切)

受講料：各回2,000円(津田塾大学学部生1,000円) 全日程申込の場合は7,000円

(津田塾大学専任教員・非常勤教員、津田塾大学大学院生の受講料は無料。要事前申込)

申込方法：右記URLまたはQRコードよりお申込みください。【申込フォーム】<https://forms.gle/zZnTosJAAtb1H441u5>

申込締切：2022年12月13日(火)

お問い合わせ：文学研究科英語教育研究コース担当 e-info@tsuda.ac.jp



お知らせ

在学生保護者のための大学説明会(オンライン配信)のお知らせ

在学生の保護者の皆様に大学の様子をお知らせする「在学生保護者のための大学説明会」をオンラインにて配信いたします。内容は以下を予定しています。ぜひご覧ください。

期 間：2022年12月12日(月)9:00より
12月26日(月)17:00まで

内容(予定)：学長 高橋 裕子より
キャリア支援について(学生生活課)
留学について(国際センター)
学外学修について(学外学修センター)

方 法：津田塾大学公式 YouTube チャンネルから配信
(<https://www.youtube.com/tsudajyuku>)
事前申し込みや登録などは不要です。

お問い合わせ：経営企画課 kouhou@tsuda.ac.jp
042-342-5113



クリスマス礼拝

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、オンライン形式での礼拝になる可能性もございます。その場合の視聴方法は決まり次第大学公式 web サイトにてご案内いたします。

日 時：2022年12月14日(水) 14:40～16:00
場 所：津田梅子記念交流館内 岡島記念チャペル
奨励者：工藤 美穂氏(コーオーディアパイオリン奏者)
お問い合わせ：総務課 soumu@tsuda.ac.jp



Tsuda Today No.125

発行日 2022年11月30日 編集 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

発行 津田塾大学

Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>

表紙切り絵 CHIKU

(種村千明・2000年卒)